



子どもに  
ツケを  
まわさない!

東久留米市議会議員

さとういちろう

佐藤一郎

1966年宮城県生まれ。A型。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業後、外資系商社に入社、同社に20年勤続。長男誕生を期に東久留米市に転居。2010年東久留米市の事業仕分けにメンバーとして参加。2011年東久留米市議会議員選挙において初当選。

家族 妻、1男(高校生)、2女(中学生と小学生)の5人家族 資格 議員力検定 議員一級

趣味 スポーツ観戦(特に母校と日本代表の応援)、読書(特にミステリー小説)

## 市庁舎内の組合事務所から家賃徴収決定!

組合事務所からの家賃徴収は、私が平成24年の予算特別委員会で初めて質問して以来、ずっと取り組んできたテーマです。現在、市庁舎内には2つの組合の事務所があります。この事務所では光熱水費は払っているものの、家賃は無償で入居しています。市庁舎は言うまでもなく市民の財産です。職員のための組合事務所は別に市庁舎内に置かなければいけないという決まりはありません。実際に他市では別の場所を借りている組合もあります。財政状況が厳しいわが市では、今後の公共施設の建て替えも見据えて、昨年の6月から多くの公共施設の使用料を値上げしました。市民にばかり負担を押し付け、肝心の市の職員が市民のためのスペースを無償で占有していたのでは、市民の納得が得られるはずがありません。私の度重なる訴えで、やっと市側は組合との交渉に入り、1つの組合とはこの度交渉がまとまりました。年額で約58万円の収入になるとのことです。もう1つの組合とはまだ交渉が継続中とのことですが、こちらも早期の解決が図られることを期待しています。今回のことだけでなく、私はこの4年間、市の職員に対しては厳しい態度で臨んできました。市議会議員になってすぐの予算特別委員会では、職員共済会への補助金を問題にしました。前年まで1000万円近い額が補助金として市の一般会計から職員の福利厚生のために使われていました。私の質問を契機にこの補助金は休止されました。また外からは見えなかった市当局と職員組合との様々な交渉の経緯も市のホームページで公開することができました。



市の財政状況は厳しく、少子高齢化が進む中で、消費税の値上げだけでなく、国民健康保険料、下水道料金、介護保険料も値上がりし、次々と市民負担が増えています。そんな中、市民に負担をお願いするならば、まず職員自ら身を切らねばならないと思います。もちろん議員も同様です。身を切る改革をしなければ、市民の同意は得られません。これまでの市議会は職員と「なあなあ」でやってきたのかもしれませんが。職員組合から選挙で応援をもらっている議員も確かに存在します。しかしそんな議員ばかりでは、東久留米市の未来はありません。私はこれからも東久留米の未来のために、嫌われ者になっても行財政改革に邁進していきます。

# 市議会議員としての 4年間で振り返って

## 『市議会議員なんて誰がなっても一緒でしょ』

貴方はひょっとしてそう思っているかもしれません。実は私も5年ほど前まではそれに近いことを思っていました。しかし市のことを学び、市議会議員として4年間過ごした今は、はっきりこう言えます。「絶対に違う」と。例えば、貴方は保守系の議員と革新系の議員では考え方が違うのだから一緒じゃないと思うかもしれません。

では保守系の議員とは何なのでしょう？少なくとも市議会議員においては、自分が住む地域選出の議員なのです。その地域の利益のための代弁者です。それでは革新系の議員とは何かと言えば、おおざっぱに言うと生活弱者や様々な団体の利益のための代弁者です。

ですから保守系の議員は地元の要望を代弁し、道路を改修したり、あるいは集会施設を整備するよう行政に要望します。革新系の議員は福祉的な施策を充実させるように要望したり、自分を支持してくれる団体のために活動します。もちろん、私はそのような議員がいることを否定するつもりはありません。一定数そのような議員がいることは市議会にとって必要でしょう。しかし、市議会がそのような議員にばかりなってしまうたら、市はどうなるでしょう。高度経済成長期のように市の人口が増え続け、毎年税収が伸び、その税の分配だけをすればいい時代ならそれでもよかったです。しかし、今はそんな時代とは違います。年々高齢化が進み、市の税収は右肩下がりになっていきます。

これまでのように要望するばかりの議員だけでは、いずれ市の財政は必ず破たんします。私は市議会議員としての4年間で、お金のかかる新規事業の提案はほとんどしていません。提案したのも市の税収をアップさせるためのものや、現在ある案をより低額に抑えるような提案ばかりです。例外は認可保育園増設の提案など、子供たちのための事業の提案くらいです。子育て世代に東久留米市に住んでもらわないと東久留米市の未来はないと考えるからです。もちろん高齢者の方にも元気に暮らしていただきたいと思いますが、そのような施策は他の議員がとても熱心にされていますので、私があえてする必要はないと思っています。

では私が4年間何を必死に訴えてきたのかと言えば、それは**行財政改革**です。東久留米市の行政のムダを徹底的に排除し、スリムで効率的な市役所にするのに努めてきました。

また様々な団体への毎年決まった額の補助金なども見直すように提言してきました。一定の効果はあったかと思っています。

もちろん多くの障害はありました。それらの団体から支援をいただいているのであろう他の議員からです。そのような補助金は既得権のようになっています。それを削減されることは、その団体にとっては死活問題になりかねません。しかし市には補助金を支出する際のルールがあります。私はそのルールに則った適用を求めただけです。団体も自立が必要になるということです。

残念ながら私のように考える議員は、東久留米市議会には多くはありませんでした。何かをするにつけ自分の支援者の顔色をうかがう議員が多かったと思います。私はそのような議員にはこれからも決してなりたくはありません。

最後に私はもう一度言いたい。

『市議会議員は誰がなっても一緒じゃないですよ』と。

東久留米市を変える5つの政策

## 行財政改革の推進

数多くある補助金のゼロベースでの見直しなど、歳出の徹底的な見直しを行い、更なる歳出削減を進めます。また同時に議員報酬と職員人件費もカットし、市の財政の健全化を目指します。

## 保育・子育ての充実

現在200名近い待機児童を解消するために、認可保育園の新設や保育ママの拡充などを進めます。また、『コミュニティ・スクール』（地域運営学校）を導入し、先生と保護者だけでなく地域みんなで子供を育てましょう。

## 予約制乗り合いバスの導入

前市長は財政負担の大きさから、自らの公約だったコミュニティバスの導入を断念しました。より財政負担が小さい、民間を活用した予約制乗り合いバス（デマンド交通）の導入を目指します。

## 福祉・介護の充実

今後主流になる在宅介護は医療機関など様々な機関と連携し、安心できる介護体制を構築することを目指します。また同時に、団塊世代・シルバー世代の活力を地域活動やNPO活動に役立てて頂ける環境づくりを目指します。

## 議会基本条例の制定

近隣市でも制定が進む議会基本条例を制定し、市民に分かりやすく、意見を伝えやすい市議会にしたいと考えています。あわせて、全議員参加の議会報告会や土日議会の開催を目指します。



子どもに  
ツケを  
まわさない!



維新の党



@satoichiro5



ichiro.sato5@gmail.com

東久留米市政についてのご意見等、お気軽にお寄せください!